

* 主イエスが死から復活されたことを4つの福音書の記者は詳しく述べている。

先ず、イエスの死が仮死ではなく、完全に死に至ったことを記す。

マルコでは15 : 37、15 : 44 ~ 45、15 : 46など。

そして16章の墓が空っぽであったこと。

* 日曜日の朝、最初に墓に行ったのはマグダラのマリヤ他2人の女性。悲しみのうちに途方に暮れていたのは女性たちであった。イエスの遺体はどうなったかと、また、丁寧に葬りの処理をしたいと日曜日の早朝、真っ先に墓に来たのは女性たちであった。しかし、驚きの連続であった。

墓の入り口の石がすでに転がしてあったこと。真っ白な衣を着た青年（御使い）が座っていたこと。そしてその青年が言った言葉。「驚いてはいけません。あなたかたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧下さい。ここがあの方の納められた所です。」（マルコ 16 : 6 ~ 7）

御使いは、女性たちが先に確かめていた場所に遺体がないことを示した。

女性たちは恐ろしくて震え上がり、急いで墓を出た。

* 死人がよみがえることは、常識では考えることができない不思議な出来事である。それは、イエスのご自分でよみがえったのではなく、父なる神に「よみがえらせられた」。すなわち、イエスの復活は、神が、人を救うという目的をもって行われた奇跡のわざである。これにより、イエスは神の子、救い主であることが証明され、私たちの罪からの解放が保証されたのである。

* イエスは単に生き返ったのではなく、栄光のからだによみがえった。主イエスはよみがえられたからこそ、今も生きておられる。私たちと共におられる。姿かたちは見えないけれども、言葉に触れることができる。礼拝と祈りの中でその臨在を感じるができるのである。しかも、主イエスがよみがえられたことにより、それを信じる私たちも終わりの時に、イエスと同じように朽ちないからだによみがえり、永遠に生きることが約束されている。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」（ヨハネ 11 : 25）

主イエスの復活の喜びは私の復活の希望の喜びである。